

合格体験記

氏 名: XXXXXXXXXX

担任講師: 上田 先生

在籍校舎: 西日暮里 校

進学先 早稲田大学人間科学部 人間情報科学科

その他
合格校

* 入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

私が受験勉強をする上で一番の壁は自分が分からないとこがどこなのかと認識できていなかったことである。何をやるべきか中途半端に出来てしまうために、どこに焦点を置いて勉強すべきかが全く分からなかった。高校一年の冬、これではだめだと思い塾を変えることを決意し、稲門学舎の門を叩いた。

私のような壁にぶつかっている人はたくさんいると思う。私の場合は、一番命がけやむい、基礎の部分の分からない教科書に乗っているような単純計算の問題は得意だった。学校のテストでもそこそこの点数がとれた。要するにただの暗記に依っていたのである。ただ語句の暗記として解ける問題であればそれで十分通用するが、求められたいのはその先だ。例えば数学において、その計算をして結果が一体何を意味しているのか、最後の答えと出題の必要の過程は何なのかを捉えていこうと感じる。また、一問解いたら合っているかどうか確認するのもよく、私は途中で気付いてこの市は止めよう。このやり方は後で「不安」に変わっていく。模試を受けてみれば分かるのだが、時間を決められている上に答えは隣には、普段の勉強の環境と正反對面なのである。そのような状況で自分の考えを整理できるかと言わせたなら、不可能に近いと言えよう。学校のテストは範囲が細かく決められていて、しかも授業で学んだことしか出ない。人に向き不向きがあるとすれば、私に向いていないのは普段からコツコツと勉強して学校のテストで点数をとること。何回もあるが一度少し失敗してまた直ることができる。そして向いていないことは一回

下居てが決まるテストに耐えられること"ある
。元々で精神は強くはかった。本来はこと
は、自分を客観視することの重要性は
必要ではなかった。
その塾の良かったところは、聞いてもらうぐ
に教えてもらうことだった。分からなかったか
ら時間とくちと言われて、いままでとは違
った。確かに答えを見れば詳しく書いてあるが
、実際に教えてもらうのは違った。聞きか
ら分からなかったことがあつたが、すぐに確認できる
、そんな環境だったからこそ伸びたのだと思
う。2年間、本当に世話になりました。